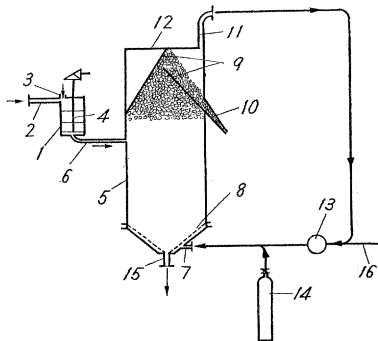


上 水 浄 化 方 法

特公 昭 35-14036

発明者 村 山 仁, 外 1 名

管 (2) より槽 (1) に導かれ必要に応じ投入口 (3) より凝集剤を添加し浮遊粒子の凝結を終えた被処理原水は槽 (1) より管 (6) により浄化槽 (5) に導入され、管 (16) よりの空気および槽 (5) の排気管 (11) からの排気はブローア (13) により管 (7) を通じてポンペ (14) よりの塩素ガスとともに槽底に吹きこまれ、吹込口 (8) にて発生する微細気泡により激しくかくはんせられ吹込塩素ガスにより殺菌されると同時に原水中の浮遊物細菌などの夾雑物は気泡に吸着誘導されて浮上する。液面上の蓋板 (9) (9) はその間げきを上方に向かって漸次小なるように対設されており、気泡は対向間げきから越流し管 (10) を経て外部に排出される。原水は十分清浄化されて管 (15) を経て槽 (5) より連続抽出する、抽出清浄水は原水の性状に応じてそのままあるいはろ過をしたのち上水として使用に供する。吹込塩素ガスは殺菌作用とともに原水中の溶存有機物質の酸化作用も併有し浄化を一層助長する。また蓋板は間げきを上方に向かって漸次小なるように対設したので気泡は液面に滞留することなく間げきから越流する利点がある。



鉄筋コンクリート矢板の並立間げきを
充填する水中施工法

特公 昭 35-14635

発明者 松 井 孝 逸

鉄筋コンクリート矢板の相隣接した間げき部を充填する水中施工法に関するもので、矢板打込後相隣接する矢板の側面相互間に形成される円形の空けき溝にモルタルを装填した軟棒状のポリエチレン製管袋をそう入し、あるいは空けき部にポリエチレン製管袋をそう入したのち、これにモルタルを装填するようにし、モルタルの凝

固をまって間げき部の充填を完了する。ポリエチレン製管袋は弾性があるためモルタルの圧力で拡張し円溝壁に一樣に密着し、またモルタル硬化前に流水や波浪をうけてもモルタル流出が防止できる。

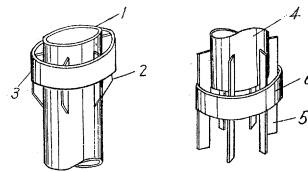
鉄 管 杭 装 置

特公 昭 35-14637

発明者 諸 角 嘉 玄

鉄管ぐい (1) の頭部外周壁に複数個の補強板 (2) を放射状に固着し、その外側に補強環 (3) をけつ合溶接する。またキャップ (4) には鉄管頭部の補強板 (2) の間に入りうるように補強板 (5) を取付け、その外側に補強環 (6) をけつ合溶接する。鉄管ぐいを打込むさいには打撃力はキャップ (4) よりその補強板 (5)、補強環 (6) を通して鉄管ぐい (1) に伝わる。鉄管ぐい (1) はキャップ (4) と接触しないよう適当な間隔をとるから、鉄管ぐい頭部は損傷することなく完全な形状を保ったまま打込みを完了し、これにほかの鉄管ぐいを継ぐ場合もそのまま容易になしうる。

鉄管ぐい部分 キャップの部分

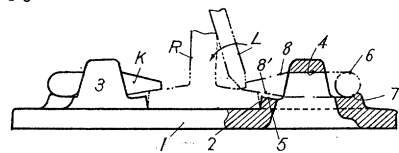


タ イ プ レ ー ト

特公 昭 35-15101

発明者 後 藤 安 基

まくら木上に取付けるようにした床鋸に係孔を設け、この係孔にレールを抑止する抑止物を嵌挿する形式のタイプレートの改良に関するものである。床鋸 (1) にレールの側面に向かって開口する係孔 (4) を有する環体 (3) を突設し、この環体の前部にレールの当る縁部 (2) を設け、また環体後部に係片 (K) を滑り込ませる弧形凹窩 (7) を形成する。一方形片 (K) の前部表裏にはレール (R) の斜面に接する斜面 (8) (8') を、また尾端には環体後部弧形の凹窩に適合する円形断面 (6) をそれぞれ形成し、係片下面をレール翼縁上にそわせ環体と係片との抑制によってレールを強圧支持するようにしたものである。



(特許庁審査第二部 荒木達雄)